市報ぎょうだ
No.804
平成25年6月1日発行

行田 歴史系譜 231

いにしえの行田を探る 3

開拓者のムラ

行田市域では、弥生時代後期（1～3世紀）の遺跡がほとんど見つかっておらず、この時期は市域に集落がほとんどなかったようです。

ところが古墳時代前期（4世紀）になると、一転して白鳥田遺跡（荒木）、屋敷通遺跡（小見）、文珠前遺跡（白川戸）、柳坪遺跡（白川戸）、古宮遺跡（小敷田）、池守遺跡（中里）、小敷田遺跡（小敷田）、林遺跡（長野）、諏訪山遺跡（佐間）、北大竹遺跡（藤原町）、小針遺跡（小針）、陣場遺跡（渡柳）、武良内遺跡（樋上）、鴻池遺跡（樋上）など市内各地に小規模な集落が営まれ始めます。これらの集落の大半は、低地に形成された自然堤防上に営まれています。利根川の洪水などで肥沃な土砂が流れ込んだ低地に人々が進出し、開発が進められていったのです。

この時期の多くの遺跡からは、口縁部の断面形態がS字状を呈する薄手の台付甕形土器（通称「S字甕」）が見つかっています。この「S字甕」は、弥生時代後期（2世紀）に愛知県の濃尾平野で使われ始めた土器です。

S字甕（北大竹遺跡）

濃尾平野では、この時期農業が発展し、人口が増加していきました。3世紀ころになると、人々は進んだ農業技術を携えて東へ西へと移動を始め、それと共に土器も移動し、関東地方でも「S字甕」が使われるようになるのです。古墳時代前期に行田の低地を開発した人々は、こうした濃尾平野の進んだ農業技術を受け継いだ人々だったのです。

ところが、5世紀前半になると北大竹遺跡、武良内遺跡など一部の集落は継続して大きくなっていきますが、その他の集落は姿を消し、代わって馬場裏遺跡（長野から桜町）、神明遺跡（長野）、小針北遺跡（小針）高畑遺跡（下忍）などの集落が現れます。開発は失敗してしまったのでしょうか。そうではありません。開発が成功して経済的基盤が確立し、集落は集約・再編されて大きくなっていったのです。その証拠にこの時期に営まれた集落の多くが、この後も長期間に渡って営まれ続けることになるのです。

（文化財保護課　中島　洋一）

こぜにちゃんが行く！ with フラベえ

観光案内所

このコーナーでは、行田の歴史や名所、名物などを行田ゼリーフライキャラクターのこぜにちゃんが分かりやすく紹介します。

行田の観光名所や宿泊施設などを案内する「観光案内所」。平成8年11月にJR行田駅前にオープンして以来、行田の魅力を伝えるため、行田を訪れる観光客を「おもてなし」しているよ。

昨年は、約13,000人の方を案内したというから、行田の観光案内にはなくてはならない存在だね。

また、観光レンタサイクルの他に電動アシスト付き自転車（有料）も貸し出しているから、市内をポタリング（自転車での散策）してみてはいかがですか。

今月の表紙　5月4日、さきたま古墳公園で第28回さきたま火祭りが開催されました。火をシンボルにした古代ロマン溢れる祭りを楽しみに、市内外から約12万人の観光客が訪れました。午後7時過ぎになると、ニニギノ命とコノハナサクヤ姫が輦台に乗って登場。産屋に火を放つと観客から歓声が起こり、祭りは最高潮に達しました。この幻想的な光景に、来場者誰もが酔いしれていました。

■市報ぎょうだに掲載されているあなたの写真を差し上げます。ご希望の方は、広報広聴課広報広聴担当（内線318）まで。
■市民の皆さんの市政に対するご意見をお待ちしています。
■市報をCD―Rに録音したものを希望者宅にお届けします。ご希望の方は、広報広聴課広報広聴担当（内線318）までご連絡ください。

VEGETABLE OIL INK 環境にやさしい植物油インキ
市報ぎょうだは再生紙を使用しています

■編集・発行／行田市総合政策部広報広聴課
〒361―8601　行田市本丸2番5号
TEL556―1111　FAX550―2116